

# 特集 文化財レスキュー

災害の現場から

文化財レスキューの支援体制  
もしも災害に遭ってしまったら

文化財保存修復情報誌

第一号

みずのを

——人・モノ・自然の幸せな関係を考える



## 緒言

昨年創刊した「みずのを」は、お蔭さまで2号刊行の運びとなりました。

第2号のテーマは、「文化財レスキュー」です。

近年打ち続く自然災害は、もはや異常ではなく通常の気象現象となりつつあります。「文化財レスキュー」というワードが登場した1995年の阪神淡路大震災は、正に百年に一度の不幸な出来事ととらえられていました。しかしそれから16年後、東日本大震災が起きてからは毎年のように激甚災害が各地を襲っています。そこに戦争などの人災が加わり、嘗々と築き上げてきた人間の創造物は今、破壊・滅失の危機に直面しています。

傷ついた人間をレスキューし、治療するのは消防や医療関係者の仕事です。傷ついた人間の創造物－文化財－をレスキューし、修復し、次世代に手渡すのは私たち文化財専門家の仕事です。傷ついた人間の創造物－文化財－

今号では、文化財の被災の歴史を俯瞰しつつ、レスキューの現場、活動の実際、レスキューに関わる専門家の想い、その想いがどのように社会へ還元されているか、改めて可視化してみたいと思います。

# 災害と文化財の記録

## – 1945 年以降の国内外事例 –

1976	5/6	フリウリ地震【イタリア】(M6.1)	被害が大きかったジェモーナ・デル・フリウリでは、11世紀から造られてきた石造りの古い街並みが倒壊。余震によるものも含め 8 割の建物が全壊、半壊して圧死者が相次いだ。
1993	8/6	平成 5 年 8 月豪雨	鹿児島市内、鹿児島市周辺に 100 年に 1 度と言われる豪雨。長年市民に親しまれてきた甲突川にかかる五石橋のうち新上橋と武之橋が流失。県内最古の石橋といわれてきた実方太鼓橋も流失。
1995	1/17	平成 7 年兵庫県南部地震／阪神・淡路大震災 (M7.3)	指定物件だけでも 143 件が被災。重要文化財・旧神戸居留地 15 番館、重要伝統的建造物群保存地区、神戸の「異人館街」など建造物に顕著な被害。 ★文化庁主導で阪神・淡路大震災被災文化財等救援委員会設置。 ★初の文化財レスキュー事業実施。 ★多くの市民がボランティア活動に従事。日本におけるボランティア元年と言われる。
	2/4	歴史資料保全情報ネットワーク 設立	1933 年設立の古美術保存協議会から発展した古文化財研究会を前身とする。
1998	9/20～9/23	平成 10 年台風 7 号・8 号	和歌山に上陸し大阪・奈良を通過。兵庫、滋賀、和歌山県、大阪府など関西各地の文化財に甚大な被害をもたらす。室生寺五重塔、春日大社などが倒木により被害を受ける。その他靈山寺、法隆寺、薬師寺など県内の国指定建造物の 25% が被災。京都二条城も被災。
	9/23～9/25	平成 10 年 9 月豪雨／高知豪雨災害	高知県で記録的な大雨。高知県立美術館が 1 階床上浸水し、収蔵品 108 点が冠水。 ★全国美術館会議が会員を派遣。応急処置及び復旧活動にあたる。
1999	9/21	集集地震【台湾】(M7.6)	歴史的建造物の倒壊、博物館・美術館所蔵品の破損。 ★文化財保存修復学会が調査・支援。
2000	6 月～12 月	三宅島噴火災害	国・都指定文化財は、噴火活動が本格化し始める前に島外へ移送するなどの対応が取られた一方、史跡などは火山噴出物や泥流による被害を受けた。
	10/6	平成 12 年鳥取県西部地震(M7.3)	鳥取県を中心に家屋倒壊などの被害。液状化、地盤沈下も発生。国・県・市町村指定文化財 38 件、その他 11 件が被災。
2001	3/1	NPO 法人文化財保存支援機構 設立	
	3/10	タリバンによるバーミヤン石窟爆破【アフガニスタン】	バーミヤン谷の 2 体の仏像が爆破される。
	3/24	平成 13 年芸予地震 (M6.7)	広島県、愛媛県を中心に被害を受けた。文化財等 23 件、社会教育・体育・文化施設等 208 施設が被災。
2003	7/26	平成 15 年宮城県北部連続地震 (M6.4)	宮城県を中心に住家全壊 1,276 棟等の被害。地震前から続いた雨により土砂災害も発生。文化財等 8 件、社会教育・体育・文化施設等 57 施設が被災。

凡例 火災 台風 豪雨 洪水 地震 戦争 ★ 文化財関係者・団体の動向

年 月 日	災害名 (文化財に大きな被害があったものを抽出)	被害状況および文化財関係の状況・対応
1945	第二次世界大戦終戦	空襲により水戸城、名古屋城、大垣城、和歌山城、岡山城、福山城、広島城、首里城などが焼失・倒壊。206 棟の国宝建造物が指定解除。 世界でも各地の歴史的建造物の破壊、多数の文化財の破壊・盗難被害が起こる。
P46 特別寄稿 文化財の危機管理		
1946 11/4	国連教育科学文化機関 (UNESCO) 設立	
1949 1/26	法隆寺金堂壁画焼損	金堂壁画焼損。模写事業続行中、暖房器具から出火。
2/27	松山城焼失	松山城本丸入り口付近のたき火から引火し、国宝の筒井門など 3 棟が焼失。
1950 2/12	長楽寺本堂焼失	千葉県印旛郡大森町にある国宝長楽寺観音堂にて火災が発生、焼失。
5/30	文化財保護法 制定	
7/2	金閣寺放火事件	国宝 舍利殿、国宝 足利義光像 他、焼失。金閣寺徒弟僧による放火。
1954 5/14	武力紛争の際の文化財の保護に関する条約 (ハーグ条約) 採択	第二次世界大戦の文化財被害を受け、ユネスコによって採択。
1959 9/26	伊勢湾台風	紀伊半島から東海地方を中心にはほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらし、明治以降の日本における台風の災害史上最悪の惨事となった。 1961 年の災害対策基本法制定の契機となる。
1960 5/24	チリ地震【チリ】(M9.5)	北海道、三陸を津波が襲う。 ★岩手県陸前高田市の松原復旧工事対策本部が置かれ、1 か月後に復旧。
1964	ヴェニス憲章 発布	記念建造物及び遺跡の保全と修復のための国際憲章
	国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) 設立	ヴェニス憲章の精神を実現するために国際的な組織が設立
1966 11/4	フィレンツェ アルノ川大洪水【イタリア】	フィレンツェ国立中央図書館、サンタ・クローチェ教会、ウフィツィ美術館等で被害。 ★世界中のボランティアが集結。Mud Angels(泥の天使)と呼ばれる。国際的な修復支援活動が開始される。
1970	カンボジア内戦【カンボジア】(~1993 年)	1992 年にアンコールワット (カンボジア) が世界遺産に登録されると同時に内戦による危機のため、危機遺産に加えられる (2004 年に解除)。

# 特集

RESCUE

# 文化財レスキュー

## I 災害の現場から

現場では何が起きるのか、誰が動くのか、どのようにレスキューへつながるのか

## II 文化財レスキューの支援体制

個々ではなく全体的に協力し合うためにどのような体制が必要なのか

## III もしも災害に遭つてしまつたら

もしも災害が起きたとき、何ができるのだろうか

第2号

## みずのを

## I 特集 文化財レスキュー

### 年表

#### 災害の現場から

- 10 被災地を取材して／佐藤瑛子
- 12 東日本大震災と陸前高田市立博物館／本多文人・熊谷賢・浅川崇典
- 20 川崎市市民ミュージアムの取り組みとレスキューボランティア／佐藤美子・羽生佳代
- 24 「大切なもの」って何だろう？平成30年7月豪雨における「残す」取り組み／斎藤裕子
- 26 首里城火災における文化財への影響とこれから／中野稚里
- 28 戦争／紛争による文化財被害／松本健

#### 文化財レスキューの支援体制

- 32 独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターについて

#### もしも災害に遭つてしまつたら

- 35 文化財のレスキュー現場—装備と資機材リストについて／浜田拓志
- 40 もし写真が水害になつてしまつたら！！／白岩洋子

#### 特別寄稿

- 46 文化財の危機管理—制度の展開から次へ／三輪嘉六

## II 専門家インタビュー

- 52 文化財保存科学者／星恵理子
- 54 株式会社東京文化財センター代表取締役／柿田喜則
- 57 オブジェクトコンサバター／森尾さゆり

## III 専門家のお仕事

- 61 西洋絵画の補彩について／池田奈緒・森直義

## IV 寄稿

- 66 食と器 片口いろいろ／森由美
- 70 「伝わる」ということについて 遺物の声を聴く／石原道知
- 78 「伝える」ということについて 「先人」とつながる—「痕跡を読み解くわざ」の深み／川口陽徳
- 86 エンタメと文化財 エンターテイメントと文化財の交点とは？／濱田織人

## V コラム

- 90 民俗学一話 虫愛づる人々と虫籠／金井佐和子
- 92 旅で出会った文化財 映画と食で知るインド／後閑亜有実
- 94 エッセイ人とモノの幸せな関係 付喪神考／八木三香

## VI 情報コーナー

- 96 文化財に関する書籍
- 98 修復の道具と材料を見に行こう／紙舗直・PGI
- 101 ホームセンターで見つけた便利グッズ／亀井カオリ・倉田治彦

# 東日本大震災と 陸前高田市立博物館



左) 新設された博物館 右) 被災直後の陸前高田市立博物館

た大地震と津波に襲われた東北の街を見て「まるで戦後の焼け野原のようだ」と評する記事を何度か見た覚えがあります。その表現が妥当であるとすると、戦後生まれが殆どの今の日本人にとって直面する未曾有の大災害だつたということになります。文化庁により設置された「被災文化財等救援委員会」の岩手県担当となつた東京国立博物館保存修復課長神庭信幸先生に連れられて、発災直後に陸前高田市に入つた筆者が目についたのは、海の中に浮かぶ民家の瓦屋根、市街地に打ち上げられた大型漁船という異様な光景でした。橋や線路などの人工物は全て破壊され、目にに入るものといえば瓦礫と雑草と水溜り、そしてひしゃげて積み重なつた車の山でした。

全国で被害にあつた文化施設は全3397館（文化庁HPより）。それぞれの悲劇は筆舌に尽くしがたいものがありましたが、中でも当機関が支援にして、図書館の復興に続いて令和4年11月5日、待望の博物館が海と貝のミュージアムと一体化する形で開館することが出来た。この喜びは筆舌に尽くし難いものがある。

震災発生から約一ヶ月後の4月12日から3か月、被災した博物館での活動を記録した黒い手帳をしばらくぶりでめくつて見ると、ひたすらに瓦礫の中からの資料の救出作業に当たつていた日々がよみがえて来た。その中で、全國から救出活動に参加された方々か

## 東日本大震災発生から14年 —改めて文化財レスキュー活動の意義を考える—

本多文人

元陸前高田市立博物館長

ら、「昭和30年代はじめにどのようないい背景があつて、東北公立登録博物館第一号が開館されたのか」、美術関係者の間から「陸前高田になぜこのように大量の美術品が所蔵されていたのか」という二つの質問がたびたびあつたことが思い出される。改めて、まとめてみたいと思う。

昭和34年1月1日は、公立博物館登録東北第一号が開館した記念すべき日である。私は、震災前を含めて、かねてから、その背景についてまとめたいと思い続けていたのである。震災前のある日、在京の大学教授の来訪を受け、本市出身の熊谷辰治郎を知ることとなつた。教授は「熊谷辰治郎全集」の編集発行に携わられた方であつた。熊谷辰治郎は明治25年生まれ、

大正2年岩手師範学校を卒業し、二校目に地元広田尋常高等小学校に主席訓導として在職し、勤務の傍ら、岩手教育会氣仙支部機関紙「教育の曙光」を発行、折からの大正デモクラシーの影響を受け気仙の教育の革新運動の中心的な躍をしていた。やがて、三陸の海辺の小学校長となるが、退職して京、社会教育研究所での研修参加の後、日本青年館勤務となり、やがて日本青年館総務部長となり、日本青年団活動の中心的指導者となつた方である。「熊谷辰治郎全集」の中に、「考えて欲しい郷土館」（昭和12年刊行）の一文を発見、教師の仕事以外にも様々な活動を展開しており、博物学者鳥羽源藏が小友尋常高等学校に勤務しながらさまざまな研究を行つていた自宅を訪問し指導を受けており、その時の様子を文中で次のように述べている。

あたつた陸前高田市立博物館は、当時の館長をはじめ職員がほぼ全員亡くなるなど、甚大な被害を受けました。同館は岩手県第一号の公立総合博物館。地元の豊かな自然史資料や、漁撈用具、古文書や地元作家の美術作品など、東北のアイデンティティを網羅する博物館でした。収蔵資料の3分の2が奇跡的にレスキューされたのは、同館が海を背にして建つていたため、引き波で戻された資料を博

物館の後壁がしつかりと受け止め、引波で戻された資料を博めたからだと、同館学芸員（当時）の熊谷賢先生は仰います。その姿はまるで、「父親が大きな背中で波から子供を守つているようだつた」という言葉が今でも印象に残っています。

その後当機関は東京国立博物館と歩調を合わせ、閉校になった山の中の小学校に避難させた被災資料の調査や修理設計に協力し、その後「安定化処理」と言われる修復作業にも従事することになりました。

もちろん陸前高田の応援に駆け付けた組織は一つや二つではあります。この場では、幾多の困難を乗り越えて新しい博物館を設立した陸前高田市立博物館に注目し、復興にかけた想いや地域

の方々とのつながり、未来への展望などを関係者に語つていただけました。同館の取り組みが、現在復興に向けて努力を重ねておられる熊本や能登の関係者、また地域の宝を愛するすべての人たちへ、今後の指針となるようお伝えできれば幸いです。

（NPOJCP事務局長 八木三香）

# 戦争 / 紛争による文化財被害

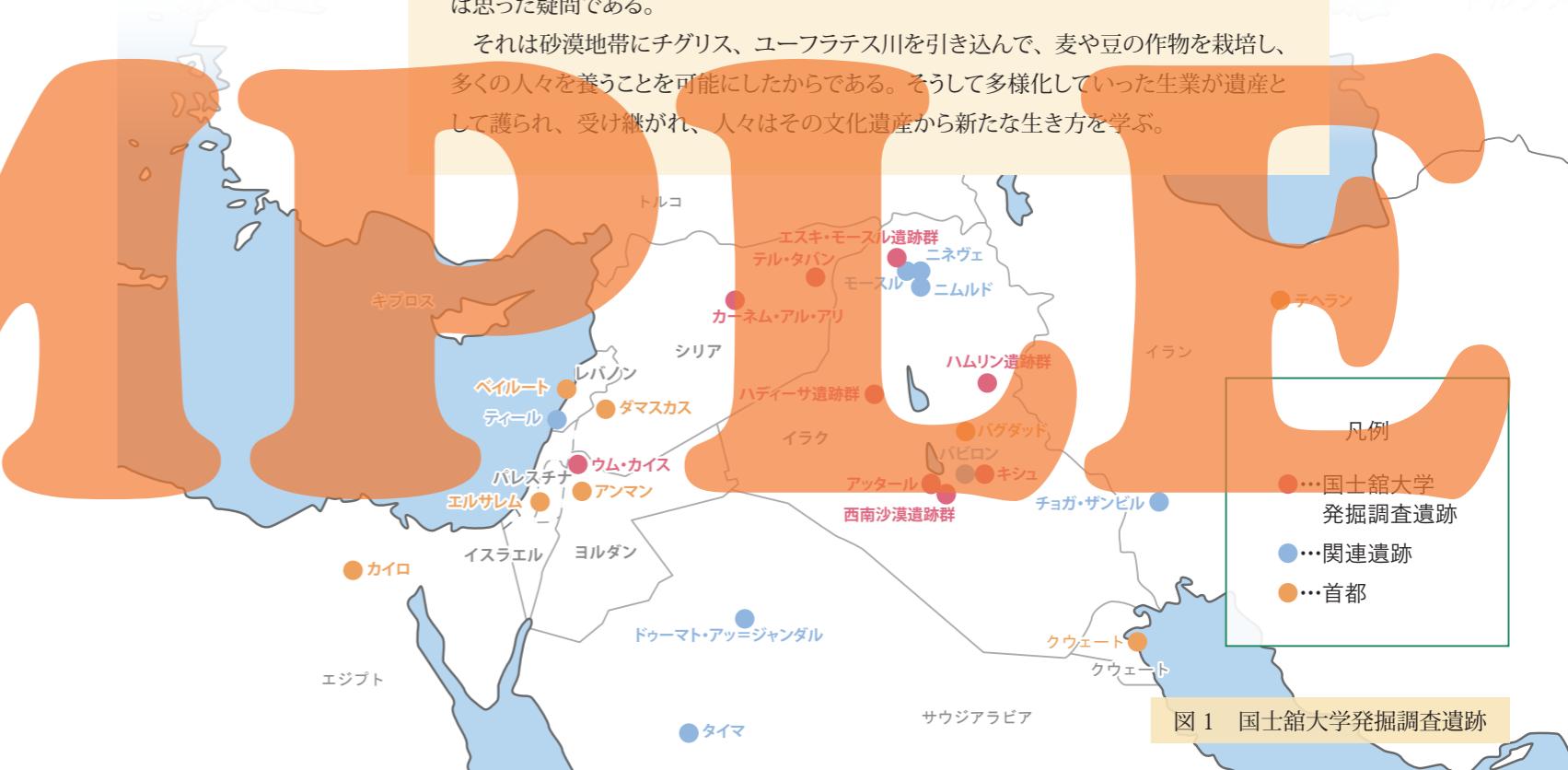
まつもと  
松本 健

NPO 法人文化財保存支援機構理事、國立館大学名誉教授

## はじめに

“人類最古の古代メソポタミア文明”は何故砂漠地帯に起こったか？誰しもが一度は思った疑問である。

それは砂漠地帯にチグリス、ユーフラテス川を引き込んで、麦や豆の作物を栽培し、多くの人々を養うことを可能にしたからである。そして多様化していった生業が遺産として護られ、受け継がれ、人々はその文化遺産から新たな生き方を学ぶ。



松本 健 (まつもと けん)

NPO 法人文化財保存支援機構理事、國立館大学名誉教授。  
1974年7月より國立館大学 法学部比較法制研究所 助手を経て、1976年4月から國立館大学 イラク古代文化研究所に勤務。1995年～2018年 同研究所教授。長年にわたりイラク、ヨルダンでの発掘調査や文化遺産保護に携わる。  
2018年3月に國立館大学退職後、同年6月より現職。

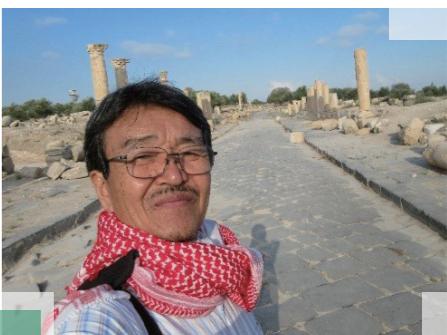


写真1) 略奪されたイラク博物館の登録遺物



写真2) 破壊・略奪・放火されたイラク国立中央図書館



写真3) 破壊された国立バスク图书馆

## 中東の戦争・紛争の中での文化遺産研究

私は1972年10月に初めてイラク西南沙漠アッタール洞窟の発掘調査に参加してから、メソポタミア文明の歴史を学ぶとともに近年の戦争を目の当たりにしてきた。近年の中東の戦争と我々の発掘調査をたどつてみると、表1の通りとなる。こうした戦争の中で、文化遺産はどう取り扱われてきたのかを見てみよう。

表1 中東戦争と発掘調査

### 1980年3月～88年

サダメ・フセイン政権下でのイラク・イラン戦争とその後8年間の戦争。  
ハムリンダム建設に伴う遺跡群救済の発掘調査、ハディーサ水没遺跡群、エスキ・モースル水没遺跡群、アイン・シャイヤ、ドカキン遺跡

### 1989～1990年

#### 第1次キシュ遺跡発掘調査

#### 2000年8月

イラク、クウェート侵攻。湾岸戦争勃発

#### 2000年11月 第2次キシュ発掘調査

#### 2001年9月 第3次の発掘調査

#### 2003年3月 イラク戦争勃発

#### 2016年

イスラム国（IS）による中東の混乱と文化遺産破壊

#### 2020年 世界的コロナウィルス拡散

#### 2023年 イスラエル・パレスチナ戦争

## イラク戦争と文化遺産

イラク戦争が始まる3ヶ月前、米国のシカゴ大学教授M・ギブソンから、メールが届き、イラク国立博物館を護るようアメリカ政府に進言するので、あなたも同意するならばその連署をブッシュ米国大統領に提出することであった。このメールはメソポタミア考古学を研究する調査団長等へ送られた。しかしその願いも叶わず、イラク戦争が2003年3月20日に始まった。2003年4月5日、米軍は首都バグダッドへ進軍。2003年4月10日夕刻、暴徒がイラク博物館へ乱入。そしてイラク博物館の至宝17万点が略奪されたと報道された（写真1）。

略奪は2003年4月10日～13日の出来事だった。イラク国立博物館で暴徒が学芸員に追い払われている場面がニュースに出たときはショックであった。発掘された遺物は、登録され、収納され、また展示されて、皆に感動を与えていたのだろうと思っていたのだが、一晩で多くの至宝が略奪されてしまった。2003年4月13日、ようやく米軍はイラク博物館の警護を開始したが、戦争中という不安定の中で今度は盗掘がイラク各地で盛んに行われるようになった（写真4）。